

教育、2次産業振興を目標に

小笠原市政3期日スタート

助役に吉本、浜田両氏

収入役には田岡氏

十二月定例会は十二月十二日開会、二十三日までの十二日間の日程で開かれました。提案された議案は、助役・収入役の選任同意、五十八年度一般会計補正予算（二億四千九百七十八万円）など十三件で、五十七年度一般会計決算など五件を継続審査とし、五十八年度一般会計補正予算など八件を可決・認定しました。このうち、任期満了となった助役、収入役の選任については、開会初日に分離採決され、助役に吉本太志男氏（60歳・再任）、浜田一雄氏（61歳・新任）、収入役に田岡信雄氏（60歳・再任）がそれぞれ就任しました。

また、小笠原市長は三期目に臨み次のような所信を表明、一般質問は八人の議員が市長の政治姿勢や教育、空港問題について執行部の考えをたずねました。

所信表明（要旨）

「空港新時代の幕明けを迎え、本市の現状と将来を展望しますと、その体質は成長過程にある青年期の姿にたとえることが出来ると思えます。多くの弱点を持ち、アンバランスの状態にあって、決して均衡のとれた都市とはいえませんが、それなりに努力のしがいのある希望の持てる都市であると考えます。

過去八年間、行政目標として来た空港問題、財政再建、同和対策等についても、時勢に適應させるよう前向きな検討を加えなければならぬと思います。

まず①空港建設は一応の完成を見ましたが、懸案事項や新たに発生が予想される事項については、引き続き努力する考えであり、新たな行政目標として空港機能の活用を計らねばなりません。

②財政再建は依然として大きな課題です。昭和五十年に財政危機は頂点に達し、昭和五十一年から自主再建に取り組み、表面上の赤字は解消して、その後は黒字を続けています。高度経済成長時代の累積赤字は、一朝一夕には解消できず厳しい財政の状況下ですが、一定額の解消を続けなければならぬ

特別委員会委員決まる

十二月定例会の最終日（十二月二十三日）、二つの特別委員会が議会内に設置され、本市の抱える空港、阿佐線問題について、再び審議することになりました。

委員は次のとおり。◎印は委員長、○印は副委員長

■高知空港対策特別委員会
◎橋本二三、○堀川和夫、俊一

十二月定例会の最終日（十二月二十三日）、二つの特別委員会

溝淵健夫、森尾隆、高島邦明、竹内淳輔、島崎秋水、小沢正澄、島内正雄、松本二郎、溝淵正、北村明、西山道雄、岡崎俊一

■阿佐線対策調査特別委員会
◎高島邦明、○岡林保、山本昇、島崎秋水、今井成子、島内正雄、吉村雅男、北村明、井口清、小沢正澄、溝淵健夫、岡崎俊一

本市は農業の先進地であるといっても過言ではなく、今後は適正作目の研究や空港所在地としての条件を生かした臨空型農業の振興を図るべきだと思います。

また、二次産業については地価や労働力の問題はありますが、気候風土や交通輸送体系の有利な条件を生かし、臨空型企業の誘致に力をそそぎ、公害のない企業誘致の努力を続けたいと思います。

第三次産業は地理的条件に恵まれていますので、一次産業や二次産業の充実に伴って発展するものと考え、期待しています。

以上、これら諸問題実現のためには、市民の市政に対する理解を高もると共に、市政に携わる当局者自らの意識の改革や能力の研さんに努める決意です。

大湊小 防音工事早急に

臨空港型農業・企業誘致にも努力

一般質問に対する 執行部の主な答弁

●し尿処理場建設には、地元の方の理解と協力が最も大切で、場所の選定について慎重に検討中だ。今までに不手際な問題もあり、ある程度の見通しがついた時点で発表したい。市単独の建設に変わりはない。

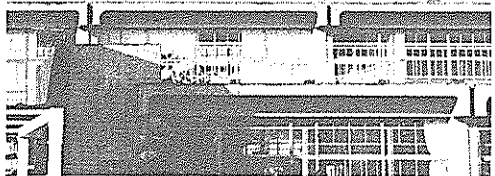
●開発公社への返済は、当初予算で五千万円しか計上することができなかつた。このままでは計画の二億円の返済は困難だが、あと五千万円程度の増額はできるのではないかと思う。

●財政再建については、今後も年二億円の解消計画に変わりはないが、予算に占める民生費の割合が大き過ぎるのは一つの課題だ。中味のある有効な行政運営ができるよう、行財政の刷新について検討したい。

●政治姿勢については従来の三本柱（財政、空港、同和）の他に①第二次産業の振興②教育の振興と施設の充実③臨空型農業の振興などを加えたい。

●ジェット機も就航し、企業誘致はこれからの大きな課題だ。本市には広い工業用地があるわけでもなく地価も高いので、公害のない付加価値の高い中小企業の誘致を考えていきたい。カシオ計算機の誘致については、本市のみならず県も力を入れている。近く本市への視察を申し入れてみたい。

防音工事が望まれている大湊小



●臨空型農業については、先進

地域との競争があり品質、価格面で負けない物を作らなければならぬ。市が奨励作目を選定するということはむづかしいが、県や関連、研究機関との協議を深めながら、援助できる範囲で協力していきたい。

●ジェット機の騒音問題については、五十九年一月に県が約二十カ所で行う測定値に注目している。

●ジェット機就航後の騒音に対する学校からの報告をまとめてみる。大湊小（防音工事未完了）では①耳や頭が痛い②先生の声やチャイムが聞こえない③YS機では耳をふさぐことはなかつたが、ジェット機の場合は耳をふさぐ④三倍の声で話さなければならぬ⑤飛行機が去った後、復習をしなければならぬ。一方、防音工事が完了している大湊小・香長中では、授業中に先生の声が聞こえないことはない、とのこと。

大湊小では学習面に支障を来すので、防音工事が早急にできるよう働きかけていきたい。

●国分川改修問題は、布師田（高知市）付近に集中して上流が手薄になっている。河川改修の原則は下流からということ、部分的には上流も進んでいるが、県とも相談しながら国の予算獲得に全力を上げる。

●北陵中の自転車通学路（領石一

せん。

●同和問題は、小集落整備事業等による環境整備や同和教育の推進にも努めて来ました。先人の努力と実績に学び、全市民の正しい認識と協力を得るための社会教育の充実に一層の努力をする考えです。

●教育行政も大きな課題です。青少年の非行化防止と学力、体力の向上に努め、財政のゆるぎ限り施設整備を重点におく考えです。

●産業の振興による経済力の培養を新たな課題として取り上げたいと思います。本市の立地条件に適した産業に注目して、その振興を図り第一次、第二次、第三次産業の均衡のとれた都市に近づこう。経済力に弾力のある都市を目指して発展を期しております。

●吾闘山の公園化による再カットについては、市の施設として利用

するのだから、事業費の一部負担はやむを得ないと思う。

●大湊保育所の移転改築は用地の確保はできているものの、明見保育所との合併問題で話が煮詰まっておらず、すっきりした結論に達していない。

吉本太志男助役の略歴



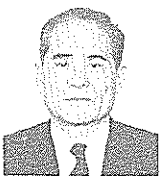
大正十二年九月生まれ、六十歳。陸軍航空通信学校を卒業して兵役。昭和二十年旧稲生村役場に勤務のあと、旧日章村、香長村助役を経て、三十五年から市建設、産産、総務課長などを歴任。五十年十二月から助役、今回三期目。現住所は立田一三三番地。

浜田一雄助役の略歴



大正十一年十一月生まれ、六十歳。一職。県立高知工業学校機械科を卒業して会社勤務の後、兵役。昭和四十二年十一月から市議會議員三期。五十年四月から市

田岡信雄収入役の略歴



大正十二年七月生まれ、六十歳。上倉第一青年学校卒業。兵役、農業従事の後、昭和二十七年旧上倉村役場に勤務。旧後免町役場を経て、市民課長、議事事務局長、公害環境課長、補佐監を歴任。五十年十二月から収入役、今回三期目。現住所は白木谷七〇八番地。

田岡収入役の話 身の引き締まる思いがしている。公金の運用に万全を期し、三役の一人として微力ながら市政発展に努力する。